

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 24 年度

事業所番号	2795000286		
法人名	株式会社コミュニティハウス・夢		
事業所名	グループホームみんなの家・福ちゃん		
所在地	大阪府東大阪市六万寺町1丁目14-20		
自己評価作成日	平成 25年 2月 10日	評価結果市町村受理日	平成 25年 4月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 25年 3月 23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちの共通理念である『人を人として尊び、共に学び、共に支え合う姿勢を持ち続けること』がいに支援する、されとの関係ではなく、共に生きる姿勢を大切にしています。その事を踏まえ、私たちに出来ることは何か、それは困ったときに相談できる関係づくり、暮らしを支え合う関係を構築していくこと、専門職だけでなく地域で暮らす住民の方々と、暮らしを支えるネットワークを構築していくことであり、それをグループホームの運営を通じ行ってきたいと思います。みんなの家・福ちゃんでは共に支え合い、最後までその人らしさを失わないように最期を迎えてほしいそんな思いで笑いのたえない賑やかなグループホームを創っています。福ちゃんが大切にしていること①一日一回は大笑いする事。共に楽しみ共に喜び大きな大家族になる事。②特にプログラムは用意せず、無理せず自然に暮らす。③一人ひとりの思い、やりたい事等、個人のリズムを大切にします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点(評価機関記入)】

長年介護に従事してきた管理者が、『本人や家族の思いを大切にしたい居場所を提供したい』との思いから、デイサービス・宅老所に続いて、グループホームを開設しました。『人を人として尊び、共に学び、共に支え合う姿勢を持ち続けること』を理念に掲げ、管理者の想いは職員にも浸透し、職員はホームの優れている点として「利用者に寄り添っていること、利用者から学び共に支え合っていること」を挙げて、理念の具現化に向けて日々研鑽しています。また、管理者は、夜間に2名の職員を配属し、常に職員が相談でき安心してケアのできる職場環境を整えています。ホームで大切にしている「1日1回は大笑いすること、共に楽しみともに喜び大きな家族のようになること」は、利用者と職員の関わりから伝わります。ホーム内に笑顔や笑い声が響き、喜怒哀楽の感情表出もあり、ゆったりした時間の流れの中で一人ひとりのペースに合わせて向き合っています。玄関先には花が植えてあり、その横には椅子を配置し、外気に触れながらおやつを楽しむスペースがあります。リビングは天井が高く、空間には広がりがあり、採光の窓も設置し、床暖房の設備も整えています。壁には絵画を飾り、生花を掛け、季節を感じる事ができます。食事は季節の野菜を取り入れ、楽しく食事ができるように味付けにも工夫しています。生活場面での掃除、食事の片づけ、洗濯たたみなど、各自が役割を持ち生活しています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コミュニティハウス・夢としてデイ・グループホーム共通理念となっています。 『人を人として尊び、共に学び、共に支えあう姿勢を持ち続けること』と互いに支援する、されとの関係でなく、共に生きるという姿勢を大切にしています。	『人を人として尊び、共に学び、共に支えあう姿勢を持ち続けること』を基本理念として、フロアに掲示しています。管理者は、理念を具現化するために職員会議などでその想いを伝えています。職員も「利用者に寄り添うこと、利用者から学び共に支え合うこと」をホームの良いところと感じています。また、職員は「1日1回は大笑いすること、共に楽しみ、共に喜び、大きな家族のようになること」を暮らしの中で大切にしており、フロア内には笑い声が響き、利用者の笑顔や喜怒哀楽の感情表現を大切に、一人ひとりのペースに合わせた支援を行っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	約1年が経過し町内会・自治会の方々にも、施設が存在が浸透しつつあります。当初から地域住民として、町会費を納入しています。 夏祭りにもたくさんの地域の方々に参加いただいています。これからも積極的に参加したいと思います。	開設後1年ですが、近隣への散歩や運営推進会議を通じて地域との繋がりが広がってきました。ホームの行事へ地域の方が参加し、交流の機会も増えています。近隣の人が犬の散歩で庭先へ訪れるなど、地域へ周知されました。	地域と協働しての防災訓練を予定しています。今後のステップとして、地域行事への参加や、近隣小・中学校などとの交流を図り、日常的に行き来できる関係づくりに取り組まれてははいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や広報誌などで認知症ケアの話題を発信している。 又、地域包括の関係者との交流をとおして支援の方法を学んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い。事業所の取り組みやサービスの状況を隠すことなく報告し、会議の中での意見やアドバイスをサービスの向上に生かす努力をしています。	運営推進会議は、2カ月に1回開催し記録に残しています。構成メンバーは、利用者、家族、地域包括支援センターの職員、市社会福祉協議会の職員、町会長、婦人会、認知症コーディネーター相談員です。毎回案内を発送し、参加を働きかけています。運営推進会議では、利用者のホーム内での様子や監査結果などについても報告し、家族や地域の人たちと利用者の生活の質の向上に取り組んでいます。家族へ送付している便りの中に設けられた「居室担当より一言」は、会議内で提案され、実践した成果の一つです。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	十分な連携を図り、協力関係を構築し、その都度相談を行っている。	日常的に不明な点、困りごとがあれば、市へ相談しています。グループホーム事業所連絡会があり、会議や懇親会に参加をして、市や他の事業所と交流を図っています。まだ市に報告するような事故の発生はありませんが、必要時応じて、迅速に報告する体制を整備しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	採用時に身体拘束をしないケアを説明し、職員は常に介護方法について話し合い、日々自分に置き換え、されて嫌なことをしないと視線を意識している。 また、玄関の施錠はせず、自由に出入りが出来るようにしています。	利用者の人権やプライバシーの保護、身体拘束についての学習会を実施し、職員の理解を深めています。利用者が自由に暮らせるように、言動を制限しない、医療との連携を図り、薬による活動制限がないように努めています。ホームでの暮らしは家庭での暮らしの延長と捉え、玄関は開錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で虐待防止の徹底を図り施設内外研修にも参加し、意識の向上を図っています。日々の生活の中でも職員間の意見交換を行い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修・外部研修で権利擁護に関する制度の理解を深める努力を行い、現在はおられないが、以後、必要のある方には、地域包括支援センターや、社会福祉協議会との連携を図り、活用できるように支援して行きたいと思えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に不明な点が残らないように、重要事項説明及び契約内容について、十分説明、話し合いを行い理解納得の上にて契約をして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の生活の中で、個々の利用者の想いをくみ取り、対応できるよう努めている。玄関に意見箱を設置し、書面にて苦情相談を受け付けていることを明記している。又、意見や要望があれば運営推進会議などでも話し合うことにしていますし、面会時にその都度お話をお聞きし、ご意見などもお聞きするようにしています。</p>	<p>毎月お便りを発行し、ホーム内での日々の暮らしの様子を写真で伝えています。また、「居室担当より一言」と個別の通信欄も設けており、一人ひとりの様子を家族に伝えています。家族の来訪時には、職員から積極的に働きかけて、家族が意見や要望を出せるよう努めています。運営推進会議には家族が自由に参加でき、要望や意見が出され運営に反映しています。</p>	<p>今後、ホーム独自でのアンケート等実施し、運営推進会議に参加されない家族の意見なども把握されてはいかがでしょうか。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のグループホーム会議では管理者を含み全員出席とし職員の率直な意見を交換できる機会を設けて、意見の反映に努めている。</p>	<p>管理者は、日頃の職員の様子を見ながら個別で声をかけ、職員の想いを把握する努力をしています。また会議で、意見を聞く機会を設けています。通所事業との配置転換など、人事に関する希望も聞く体制を整えています。「地域、利用者からの要望があれば、どのような方でも受け入れる」ことをホームの方針としていますが、利用者の入居に関しては、事前に職員へ情報提供をしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p><b>○就業環境の整備</b>                      代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>個々が働きやすい職場環境の一環として、1ユニット9名ではありますが、夜勤体制を2名体制とし、緊急時や日々の相談などが出来るよう配慮しています。給与面では、資格手当、能力に応じた算定を行い働きやすい環境づくりに努力しています。                      給与に関しては、介護職は安いと言われてはいますが、できるだけ生活できる水準に上げるよう努力しています。</p>		
13		<p><b>○職員を育てる取り組み</b>                      代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>一人一人と話し合う機会を設け、どのような介護職になりたいのか、研修を受けたいのかを聞きながら、力量にあった研修を受けて頂くように努めている。研修の機会を確保し、研修に費用は会社が負担している。外部研修を受けた職員が会議などで、伝達研修を行うようにしている。</p>		
14		<p><b>○同業者との交流を通じた向上</b>                      代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他の事業所との交流を図る努力をし、サービス向上に取り組んでいます。                      また、法人内の研修やグループホームでの活動の中で改善に向けた検討も行っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前相談や、契約の段階で、本人、家族の思い、不安、要望等を十分にお聞きし、安心していただけるサービスの提供がより良い信頼関係につながると思い日々、努力しています。 そして、まず現状のグループホームを見学いただき、より良い関係づくりを行うように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	プライバシーに配慮しながら、家族の思いをよく聞かせて頂き、ご家族の不安を解消できるサービスの提供に努めることがより良い関係、信頼関係が出来ると思います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者を中心に、他の機関や介護支援専門員の方々とも連絡、調整を図りながら、家族、本人のニーズに合った対応に心がける。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、お互いに支援する、されるとの関係だけではなく、共に生きる姿勢を持ちながら、普通の生活を続けていけるような支援関係を築く努力を惜しまないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何事もホームの職員だけの判断ではなく、毎日の生活を家族に伝え同じ想いを常に持ち、家族間の絆を深める努力を惜しまず、共に支える、支えているもの同士としてのより良い関係づくりを築いていきたいと思えます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いままでの生活や家族関係にも配慮しながら、面会・外出、外泊などまた、行事の参加をして頂いています。私どもではご家族や親せきの方がよく面会に来ていただいたり、家にお帰りになられたりできる支援に努めています。	家族の協力を得ながら、入居前からの理美容や利用者にとって馴染みの店への買い物など、馴染みの場を大切にしています。また、利用者が、知人や家族へ電話を希望した場合、相手の都合等、意向を確認しながら対応しています。常に家族との関係の継続を考えながら、外泊や行事への参加を働きかけています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や、感情の変化を理解し、より良い関係を生活の中で築いていただけるように、利用者同士が自然にかかわり、支え合える支援を惜しまないようにしています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在で2名の方がサービス終了になっています。お一人はお亡くなりになりました。ご主人がつい最近までデイのご利用で来ておられました。が終了になり、現在ではケアマネをとおしての近況をうかがうか年賀状で挨拶をする程度になっています。		
<b>Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中での会話や、言葉、表情等記録に残し、其の方の思いや意向を把握できるように努めています。生活歴・出来ること、できない事シート、アセスメントからも把握に努めている	利用者の意向や生活のこだわり、趣味などはアセスメントシートに記録し、職員間で情報共有して、日々のケアに役立てています。入浴や整容へのこだわりなど、今までの習慣を大切にした支援や、一泊旅行の希望なども実現に向けて取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に可能な限り本人・家族・関係者の方々よりお聞きし可能な限り情報収集を行っています。又、日々の生活や会話の中から聞き取り把握に努め又家族の方の協力で生活歴を作り個々の情報収集に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状の出来ること、できない事を把握し、ご家族、本人からも要望を聞き、個々の生活リズムを把握、本人にあった生活が提供できるように努めています。月1回の会議の中でも確認しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人らしく暮せるために、日々の生活の中で、家族には来所時または電話で思いを確認し、必要に応じ、主治医・看護師などとも協力いただき、意見を反映した介護計画を作成するように努めています。	入居までの生活について詳細を把握するために、家族の協力を得ながら「バックグラウンドアセスメントシート」に記載し、ケアに活かしています。特に入居後約2週間は利用者に関わる中でホームでの様子を観察し、要望や希望を把握して記録に残しています。その後、毎月モニタリングを実施し、概ね6カ月毎に見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入所時には初期観察記録を書き個々の情報収集を職員で共有してる。情報共有の為、職員ノートを活用。気づきや、工夫等個別記録に残し、常に職員間で共有し、全体会議で話し合い介護計画の作成を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人の希望に応じ、併設のデイサービスで過ごされたり、デイ利用者の方にハーモニカ演奏に来ていただいたり、自由にして頂いています。その時々ニーズに合わせて柔軟な対応を行っています。</p> <p>又、少なくとも、月1回は外出に出かけたり、お天気が良ければ、散歩や買い物に出かけたりその時々で柔軟に対応できるように努めています。</p> <p>また、家族の方のお泊りや、一緒に食事利用可能ですが、お声はかけていますがまだ、お泊りはして頂けていない状態です。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	色々考えながらやっていますが、現在の所十分な地域資源の活用には至っておりません。 夏祭りには、地域のボランティアの方が来ていただけ、たくさんのご近所の方がお見えになり、楽しく過ごすことが出来ました。又、クリスマス会など行事の折にはボランティアの方が踊りに歌にと盛り上げて頂き、楽しむことが出来ていますが、これからの課題は、災害時などに地域の方々に協力して頂ける関係づくりをしていかなければと思っています。 今年の4月には2回目の防火訓練を行い、消防署と地域の方々に参加して頂ける体制を作りたいと思います。 より安全で豊かな暮らしが提供できるように努めたいと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にお話しを伺いご希望に沿い、ご希望の主治医に見て頂くようにしています。日常の把握の出来る月2回の内科医と、他の医療機関には家族付添いでいかれ、いけない時はホームで行かせて頂いています。 本人や家族の希望を重視し、家族の協力を得ながら適切な医療が受けられるように支援しています。	受診は、利用者・家族の意向に沿って支援しています。入居前からのかかりつけ医には、家族が対応しています。必要に応じて、職員も付き添っています。家族だけで受診する場合は、ホームでの様子が記録されたものを家族に渡し、医療機関へ情報提供しています。また、提携している訪問看護師との連携を図り、往診医やかかりつけ医との情報を共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回訪問看護に来ていただいています。訪問時には、日々の心身の状態や情報、気づきなどを伝え、指示を受けています。又、緊急時には24時間体制で対応して頂き、主治医との連携を密に摂り適切な受診や看護が受けられるように支援している 訪問時には個々の記録を残し、職員が共有できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は必要情報の提供に努め、入院時の経過報告の確認を行っています。退院時には療法上の注意点等の現状把握に努めご家族とも密な情報交換を行い、スムーズな支援を行うように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人の意向や家族の意向を考慮し、支援方針を共有する。</p> <p>本人、家族の意向を踏まえ、グループホームでの出来ること出来ない事を互いに確認し合い、家族の方や、本人が納得したうえで、主治医、訪問看護師との連携を図りチームで支援に取り組みたいと考えています。</p>	<p>入居時に、できること・できないことを説明した上で、家族や利用者の意向を確認しています。入居後も利用者の状態に応じて話し合い、必要が生じた段階で医療との連携を密にし、家族の思いを受けとめたいと考えています。訪問看護師が定期的に利用者の健康状態や相談に応じており、重度化や終末期の支援に安心を与えています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>デイでは、消防署から救急救命講習を来て頂き勉強していますが、グループホームはまだ実施していない状態です。できるだけ早い段階で、定期的に訓練を行い、実践力を身に付けていきたいと思えます。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回防災訓練を行うつもりです。</p> <p>24年11月5日、1回目の防災訓練を行う。防災設備会社より指導に来て頂き、火災発生時の対応の仕方、消防署への通報の仕方、消火器の使い方等練習しました。2回目は4月に行い地域の方にも、消防署の方にも協力して頂き訓練を行う予定です。</p> <p>これからも、協力体制を築き、より安全に生活が出来るように努めたいと思います。</p>	<p>ホームの建築時より、防災・安全面を考慮して、平屋建ての構造にしています。また、夜間2名での勤務体制を整えています。また、4月には消防署の協力を得て、避難訓練を予定しています。消火器の設置や災害発生時のマニュアル、連絡体制も整っています。備蓄は水やチョコレート、食品庫に日常の食材が保管されています。今後は防災の意識を高め、近隣の協力を得ながら、年2回以上の消防訓練や日頃から夜間を想定した具体的な誘導について検討する予定です。</p>	
<b>IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>個々の力に応じた声かけや対応を行っている。不安にならないような声かけを心がけたり、プライバシーを損ねるような対応にならないよう努力している。</p>	<p>理念に『人を人として尊び』と掲げており、常に一人ひとりを尊重し、一人ひとりに応じたケアを心がけるようしています。また、管理者は職員に、自分がケアをされた時に心地よい言葉かけや対応をするよう伝えています。職員も利用者との視線を合わせ、ゆっくりとその人のペースに合わせた対応をしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望で自己決定できるよう、よく気持ちをお聞きした上で支援させて頂いている。表せない方は、よくお聞きした上で表情をくみ取り自己決定に近づけるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が利用者のペースを把握し、利用者のペースで一日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るようその人の力に応じ支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に鍋を囲んだり、利用者とお好み焼きを作ったり、作る過程も楽しんでもらっている。また出来る人には副菜の取り分けや、配膳、後片付けも手伝ってもらっている。	リビングに隣り合わせたキッチンで、食事を作る音やにおいを感じてもらいながら、可能な利用者には、副食の取り分けをしてもらい、食事までの時間を一緒に過ごしています。利用者の食欲があがるよう、食材の鮮度にも気を配っています。また、家族から差し入れられた野菜が食卓に上がることがあり、話題となることがあります。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え献立を作り一人ひとりの食事量の把握をしている。水分量については必要に応じて、記録し把握している。またその人に応じて細かく刻むなどの配慮をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできない方には、スタッフが支援しています。その他の方には、声をかけ、一人ひとりの力に応じた口腔ケアの支援を行っているが、毎食後はできていない。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄できるように一人一人の排泄パターンや能力に応じ声かけや誘導を行っている。 一人ではトイレでの排尿が無理な方には2人体制で支援をしています。	立位がとれる場合は、二人介助も取り入れながら、極力トイレでの排泄を支援しています。また、排便は安易に下剤に頼らず、利用者の好みに合わせて、柑橘類やヨーグルトなどの摂取により、排便習慣がつくように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防対策として毎朝食に腸の活性化に良いとされているヨーグルトや果物を食べて頂いています。また、食事は野菜を中心に1日30品目を摂取して頂く工夫を行い、それでもなお便秘気味の人には水分を多い目に摂って頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	風呂好きの人には毎日入っていたり、午後不穏気味になられる方には午前中に入浴していただいたりと、一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴支援をおこなっている。	週3回の入浴を基本とし、希望があれば毎日の入浴も可能です。中には、入浴・整容合わせて二時間ほど必要な利用者があり、整容方法を工夫することで本人も、他の利用者もゆっくり入浴時間を楽しめるようにしています。また、午前中に入浴した場合、午後から疲れてしまう利用者があり、午後の入浴を勧めるなど、一人ひとりの生活リズムや状態にあわせた支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の居室やソファ、またリクライニングで自由に休息して頂き夜間は居室の室温や寝具の状態、入眠状況の確認を行い安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬についてほぼ理解しておりその人の力に応じた服薬支援を行い、症状の変化の確認を行っており、特に便秘薬などは排便状況を把握し医師の指示のもと薬の調整をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の力に応じ、掃除や洗濯物干しやたたみ、食器拭き、食事用意などを手伝ってもらったり、散歩、外気浴、買い物で気分転換してもらったり、おやつを一緒に作ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って、戸外に出て外気浴や近隣を散歩してご近所の方とお話したり、できるだけ買い物も一緒に出掛けています。また本人の買いたいものなどは一緒に買い物に出かけご自分で選んで頂いています。概ね月1回外食や美術センター他にも出かけています。	食材や日用品の買い物など、利用者の希望に応じて出かけています。月1回は、外食や美術館やバラ園、初詣等の外出行事があります。日常的には、玄関先で日向ぼっこや近隣の散歩などの外気浴を楽しんでいます。また、家族からの要望もあり、一泊旅行も企画しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何人かの方には少額の現金を持っていただいているが、基本的には金銭管理は職員でやっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望される時は職員が取次ぎをし、かけていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、自然の風を取り入れて季節感を感じてもらっている。トイレや浴室など常に清潔を保ち消臭を心がけ、トイレにも気温差が生じないように暖房を入れ、快適に過ごして頂く工夫をしています。	平屋建てのホームは、随所に構造上の工夫がされています。リビングの天井は高く、明り取りの窓からの採光で部屋は明るく、空間の広がりがあります。床暖房を完備し、利用者は上履きなしで生活をしています。リビングには、食卓テーブル以外にソファが置かれ、利用者は自由に好きな場所で過ごしています。玄関先には花を植えてあり、椅子を並べています。天気の良い日は椅子に座り、向かいの空き地から広がる景色を眺めながら、日向ぼっこやおやつを食べることもあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、リクライニングなどその方の一番落ち着く場所、居心地のいい場所で過ごして頂くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と相談し本人の使われていたものを持って来て頂いたり、ご本人の使い易いと思われる物を買って頂き居心地よく過ごして頂ける様にしている。又畳で生活されていた方には畳の居室で過ごして頂いている。	本人や家族と相談しながら、タンス、机、仏壇などの家具やテレビなど、使い慣れた馴染みのものを自由に持ち込むことができます。楽器を持参している人もいます。居室はフローリングと畳の部屋があります。各部屋の入口には、家族で暮らす生活の場であるとの考えから、表札を掲げていません。入口はスライド式になっており、襖をイメージしたデザインになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来ることを理解し、その人の力に応じた行動を見守り、安全に過ごせるように工夫している。		